夕刊
磐城新聞
七月十日發行
發行所 磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）

法燈は輝く　四
—因にヂャンガラ念佛踊について—

鈴木積善

これは二、三年以前のことであつたが、昨年あたりは東京音頭の流行にて現在では寧ろ弊害すら現はるゝに至り、をどりそのものといふよりその取扱方に就いて一考を要するものと考へてゐる

平町を中心とするお盆の行事の盛なることは假令改良を加ふべき幾多の點を認むるにしても聊か意を強ふするものある。特にあのお迎へ火のゆかしさ、盆をどりの旺盛なる、郷土の名物たるを失はない。唯此處に絶叫したいことは、その盆をどりとして眞に宗教的意義があり郷土的特色あるはヂャンガラ念佛踊である。然るに、そのヂャンガラ念佛踊は年々その影をひそめおけさやかさをどりの類が盛になつて行くことは寒心に堪えないことである

由來ヂャンガラ念佛踊の作者傳承に就いては諸説ありてこれを詳にしないが、これが詮索は專門家の研究に委するとして、不信、妄昧な磐城人を教化するのは高遠な理を説くよりもをどりを方便として傳へたといふとだけは判斷することが出來る。その歌詞は就いて見る、ナーハーハーメーヘーへへ、ヨーホーホ……といふのは梵語のNAMO—MITA—BUDDHAの變化せるものであるものであつて、即ち南無阿彌陀佛である。天地の大生命たる無量壽、無量光たる覺者に歸命するといふ意味である。かやうな名號を口稱しつゝ踊るほど徹底した宗教的の大衆的のをどりは極めて稀である。最近文部省内に佛教音樂協會で諸佛歌や新作盆をどりなどを發表して普及につとめてゐることは喜ばしいことではあるが、このヂャンガラ念佛に及ばざること遠しである

お盆も近づいて來た。平町を中心に近鄕近在には各所で盆をどりが行はれるであらうが、昨年の音頭ばやりの影響にて、今年は一層東京音頭式のものが流行するであらうと思はれるが、この際、我等の鄕土の誇りヂャンガラ念佛踊の復興隆盛ならんことを希念して擱筆する

（昭和九・七・一日）

しのびなき
木津茂太郎

ながれてる
ながれてる
何處へ行くやら
川の水
○
とんでゆく
とんでゆく
子らに追はれる
野のうさぎ
○
ひかつてる
ひかつてる
ひろい夜ぞらに
なゝつ星
○
きこねてる
きこねてる
れんじの窓に
しのび泣き

よつてきな（民謠）…
串田一郎

知らない仲じや
あるまいし
ほんに憎らし
吉つあんは
たまにうちにも
よつてきな
捨てたもんでも
ないでしよ
ねいね吉つあん
よつてきな
よつてきや私しが
よい〳〵

○北斗莊小品
赤羽松堂

夏七章
酒甕に蚊の鳴く厨かな
老け妻に先き立たれて
水打つて涼しき椽にひとりかな
水打つて軒の葱に微風あり
糊こはき浴衣の凉し藤椅子
夏の星またゝき居れど庭暗らし
○
花春の銘ある冷し酒を惠まれて
北斗莊月を賞して冷し酒
○
明け暮れを松風ばかり夏斷かな

7月11日
△豐臣秀吉關白となる（天正一三）△佐久間象山斬らる（元治元）△日本アフガニスタン通商條約批准交換（昭和六）△京大宮本部長ら六教授の辭職正式發令△通商審議會委員會設置を閣議で決定△資源審議會總會開會、諮問事項を可決△朝鮮軍より間島への臨時派遣隊は七月六日全部歸鮮の旨發表（同八）

歌壇題詠草明紙より

社會の今日
○
一すぢの道を挾みてひろびろと、青田は朝の露に濡れたり　依田秋圃

松が枝に螢ひそめりふたところ　小野蕪子

將軍再生
友常太輝

（一）

一、豪家の沒落

『將軍、トウトウ落城したな』

町の人が、恁那咄しを至る所、持出す。將軍と云ふのは、光吉と云つて年の頃三十八、九になる背のスラりとした優さ男で、男振りのよい米穀肥料商店の主人公であつた。若い時騎兵隊にとられて、除隊後一町の穀屋 使はれて居た。至つて才發けた利口者で、其の店の主婦に取り入り、數多の藏男を飛び越して、程なく番頭格になつた。その店の主人は立志傳中の人で、若い時は小僧奉公をして育つた人。妻を娶つて始めて一町に米穀商を營んだ時には、十圓なにがしの資本で二圓五十錢の家賃を拂つて居た。商機を見るに敏で、粒々辛苦の結果は、二三年にして數名の若者を使ひ、かれこれ二十餘年間に、百萬近くの財産を拵らへた。土地の人々は誰しも目をみはつて驚ろいた。假令、それが惡辣なる肥料貸付知期利喰の手段であつたにもせよ、世人は其の手腕を驚嘆せずには居られなかつた。若い美くしい妻は毎年のやうに兒を生んだ、凡てが十一人の男女を儲けた。金運も強いが子福者としても大關格だなと世人は羨やんだ

店舗を張つて二十五年目の秋、かれ光吉の主人公は激烈なる喘息の爲めに數日にして死んだ。彼の建築した堂々たる店舗は、末だ完成に至らずして死んだ。餘りに金を搔き集めたから金の爲め冷え死にしたんだらう、等と世人は噂した。元來、その主人公は眼に一丁字も無い位の無學者であつた。で自分の不便を痛切に感じた彼は、おのが兒女等を中學や、女學校に入學させた。そして長男に天晴れ三國一の嫁女を迎へてやらうとして居るうち、急激に死んで了つたのである。年令も五十を過ぎたばかりであつた

後取りの長男は、若い優しい男であつた

講談
浪人長屋
（135）日岐武志作　月草道子畫

口惜しやッ

『なにを、するんですッ』

きつと、叫んで、靜香は後ろからしがみついて來た男の手を、やつ氣となつて振り放さうとあせつてゐる

『へ、へ、へつ、なにをするんですつだと、へん、てえげねに往生した方がえゝぜ。おれたちみんなで、おめえをかあいがりてえつてわけさ、へへつ』

男は、ニヤニヤいつてゐたが、靜香の後ろから胸のあたりを、ぎゆッと羽掻ひ締に締つけた兩腕は、ゆるめようとはしなかつた

『女だと思つて、馬鹿にするとゆるしませんよ』

藻搔けば、藻搔く程ぎゆう、ぎゆう締つけてくる男の腕

氣丈とな、靜香とてか弱い女の力は鷲に掴へられた小雀にも、ひとしい低抗であつた

『だまつて、おれのするまゝに素直にしてゐりや、いゝんだぜ』

男はいやしく、凄く、いひながら、靜香をぢり〳〵と壁際へ押へつけてゆくのだつた

權吉は靜香の危さを知つて無念におもひながら、あせつてゐたが大の男二人、前にしてゐては、どうすることも出來なかつた

男たちを睨んでゐた

くら〳〵と、めまひがするほどつかれてゐた

もう駄目ではないかと、おもつた

負けてはならぬ、と強ひて元氣を出さうとしたが躰がおもふやうにはなれなかつた

——口惜しッ……

『それッ、やつちまへッ』

『たかゞ知れた、小僧一匹ッ』

『野郎ッ』

權吉の、ひるんだのをみてとつたか、男たちはいひあはしたやうに猛然と突いて來た

この時

『權吉さんッ』

と、救ひを呼ぶ靜香の聲

ちらりと、みれば靜香は一方の壁際へ打倒されて男その上へ、のしかゝつてみにくゝ爭つてゐた

紅い裾裏が、落花の如く亂れてゐるのだ

『うぬッ』

權吉は滿身に憤怒を爆發させた

身近に突いて來た棍棒をガーンと打ち拂つた

『小癪なッ』

次の棍棒も、打ち拂つて三人目の奴を、こちらから進んで毆らうとして一歩踏みだそうとして、粗朶につまづき、よろ〳〵とよろめいてばたりと前へのめつてしまつた

『それッ』

三人の棍棒が同時に權吉の頭部に、肩に、腰に無慘にも打ち下されやうとした

『ち、ちくせうッ奴、よくもやりアがつたなッ』

向ふ脛をやられて、倒れてゐた奴が、いつしか、起き直つて、狼のやうに、猛然と、棍棒を唸らせて、振りかぶつて來た

『く、くたばつちまへッ』

權吉は、危く、身を避けた

『この小僧ッこめつ』

づしんッ

棍棒が、二本、機みを喰つて、小屋の土壁をたゝいた

とたんに、土挨が、もうもうと舞ひあがる

『ち、ちえッ。なまいきなッ野郎だつ』

權吉は、今は疲れはてゝ肩でくるしく喘ぎながら、

廣告

美味で評判の
イワキサロン
平町電三五二

磐城名物
靈峰羊羹
小川郷驛前
平屋賣店

前田醫院
院長 前田濟美
植田町電話一二四

大藏省允許
磐城無盡
自力更生ハ無盡カラ
簡易ノ金融 趣味ノ貯蓄
斷然群ヲ拔ク
共存共榮
堅實確實
平町電話三三〇八番

電話六四〇番
皆樣のタクシーへ……
此度は夏にふさはしいすが〳〵しい色彩のニーアクション裝置が入車致しました、自動車の御用命は電話六四〇番を御呼び下さる皆樣を新車と共に從業員一同御待ち申して居ります。新車も揃ひましたから遠乘の御用には特に御相談に應じます。
尼子タクシー
電話六四〇番

產科
婦人科
花柳病科
午前宅診
午後往診
入院應需
井坂醫院
平町田町（元合津醫院跡）
電話五五九番

恐ろしい傳染病の豫防に
簡便な内服ワクチンを
一人分 ¥・30
注射と同樣な豫防効力のある便利な内服ワクチンでチブス、パラチブスA・B、赤痢、コレラを防ぎませう。
善は急げ豫防は早く
西村屋藥局
平2電3

魂の這入つた
自轉車
フタバ式リヤカー發賣元
フタバ商會
平・新川町・月見橋際

磐城共濟病院（福島縣平町）（電話六四一番）
內科　院長 醫學博士 石山謙郎（電話六四一番）
小兒科　部長 岩手醫學士 平賀一忠
產婦人科　副院長 醫學博士 五十嵐雄二（電話三七〇番）
外科
耳鼻咽喉科　部長 醫學士 坂本眞一郎
皮膚泌尿器病科
花柳病科　部長 醫學士 前澤正（電話二七二番）
X光線科　醫學博士 石山謙郎
物療科　技手 石山彪
衞生試驗所　獸醫 高後利雄
藥局　藥局長 藥劑師 吉本孝平
事務長 鈴木寶雄
◎每日午前八時ヨリ
◎夜間診療開始）每夜午後十時迄）
◎病室完備 入院隨意

開業
診療科目
一、齒科一般
保存科、補綴科、繼續架工科
齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科
一、口腔外科
一、レントゲン科
中野齒科醫院
院長 日本齒科醫學士 中野惠次
日本齒科醫學士 西川誠
平町田町（松月堂向ヒ）電話五〇九番

外科全般
特ニ內臟外科及ビ內、外、兩域疾患
醫學博士 渡部義夫
小兒科、內科
女醫 渡部きい
平町役場前、電話（二七七）
入院應需
渡部外科
診療午前八時ヨリ午後九時迄

耳鼻咽喉科專門
醫學士 鈴木正男
平町田町（[illegible]）
藤田女學校前

『入院のお需めに應ず』
齒科口腔外科
日本齒科醫學士 鈴木喜政
內郷村高坂磐炭病院前
鈴木醫院

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
郡山驛より約三十丁
安積中學より約五丁
郡山市外大槻村針生
郡山腦病院
院長 醫學士 金森五郎
電話九二五番
入院隨時

高久病院（電話五三一番）
平町田町
內科
小兒科
外科
花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽清
藥劑士 佐竹[illegible]雄

五風十雨の好調子！之の降りで水騷ぎ解消
農家漸く安堵の域に入る

愛谷江筋を挾んであはや險惡な場面を展開せんとした既報の水騷ぎ迄起つた折柄昨夜來の雨、而も今十日ひる前からの本降りは正に五風十雨となつた好調子である、之で各所の水騷ぎも自然解消し、今後良き程に照り上れば——と秋の皷腹擊擾を祈念する各農家では昨今插秧直後の大事な時機に際會して居る丈け日每に變る天候の推移に滿幅の注意を拂つてゐる

五千圓のローラー着荷
鋪裝準備漸く伸展

總工費二萬圓の平町國道鋪裝工事は既報の如く諸般の設備を了し一昨八日着工、平町寄附價格五千餘圓のローラーは愈々今十日着荷縣土木課より安部技師來平近く本格的工事に入り遲くも十月頃までには一丁目—四丁目和泉屋旅館間のモダン道路が完成するわけであると、尚新田町街の同工事に就ては當局に於て着々準備中で工費約四百圓中地元負擔二百圓を近く町會に提案殘二百圓の起債其他に關する具体的協議をなす事になつたが同地は側溝なきも路線數ヶ所に排水路を設ける事で支障ないものであると

二町目裏溝附近水浸しから免る
排水路工事順調に進む

平町の排水路新設工事は去る七年元博覽會第一會場側新川筋より着工昨年度迄に直徑四十二糎(三十五本)及三十六糎(五十一本)の鐵管埋設工事を了し本町通りを越え二丁目西村藥局まで進工、今年度は工費約五千圓で同藥局裏から分れて安齊病院脇に出で更に三三屋側を日進堂菓子店迄及ぼすべく目下工事中で近く完成と共に從來降雨毎に氾濫した二丁目裏溝の汚水受難から救はれるわけである

◦◦◦◦◦署通側溝起工 工費二百六十五圓の平町二丁目菊屋樂器店横町カフェー平樂間の側溝工事は來る十七日着工竣功は來月二十日頃であると

御眞影奉遷
湯七三校で擧行

湯七台上三校の奉安庫竣功御眞影奉遷式は今十日午前九時から第二、第一平商の順で出部神官により職員、各學年學級代表出席、町議其他學務關係者臨席の下に校長により御眞影を奉遷申し上げ、兩小學校では祝ひの落雁を兒童に配布した

工事請負入札

平土木監督所では今十日午前十時から左記側溝並に道路改修の入札を執行した

(側溝)湯本町大字湯本字天王崎 (道路)小名濱町平潟線、同町字西同三株勿來停車場線、同町大字窪田字町通

印紙税檢査
來十九日より開始

平税務署では來る十九日より三日間毎日午前九時より午後三時迄署樓上で本年度印紙税定期集合檢査を行ふが受檢物件は七、八年作成に係る證書、帳簿であるが當日檢査を受けず又は受檢物件の僅少なのには後日係員が出張臨時檢査をなし尚ほ當日發見した無印紙等は即時相當補ひせしめ別に處分せぬ方針であると

支那軍閥が使つた珍紙貨幣多數寄附
滿洲歸りの多田井町議

大工町町議多田井笑次郎氏は滿般奉夫在住の令妹が死去した爲渡滿した際手に入れた張學良時代の滿洲紙幣壹百枚、壹圓(現在通用)滿洲五角、壹角紙幣、壹角五分貨幣、朝鮮壹圓、伍拾錢、拾錢紙幣外各種滿鮮紙幣及び彼地繪葉書等を第三小學校に寄贈した

昨今の白米相場
デリ高を續くる
口糧乏い小農惱む

平町役場調査による去月末現在の白米一石相場は(上)二六圓九五錢(中)二六、四五(下)二五、九五で前月に比し五圓六十五錢乃至一圓六十五錢高で更に一月に比較すれば最高九圓四十一錢高であると、尚主なる諸物價左の如し

(大麥)一石二二五圓九五錢(小麥)同一三、〇〇(小豆)同一四、〇〇(清酒)同一〇〇、〇〇(醬油)同三五、〇〇(味噌)一貫目五〇(茶)百斤五六、〇〇(牛肉)百斤五二、〇〇(白砂糖)同一九、〇六(石油)一箱四、六〇(石炭)一噸一二、〇〇(薪)十貫目三〇(木炭)同二、一七

平町各種勞銀

平町役場最近の調査による勞銀表左の如く農作日雇賃は農繁期の關係から去る三月末現在に比し四十錢高で他は何れも同額であると

(農作日雇)一、〇〇(塗師)六〇(染物)同(和服仕立)同(洋服仕立)九〇(木挽)一、三〇(大工)一、二〇(左官)一、二〇(指物)一、二〇(疊職)一、〇〇(建具)一、二〇(植木)一、五〇(車製造)一、〇〇(鑄物)一、六〇(鍛冶職)一、五〇(活版植字)一、一〇(桶職)一、〇〇

◦◦◦◦方面委員協議 縣主催の郡內方面委員聯合會は來る十八日小名濱町で開き尚當日は同聯合會評議員會並に總會をも開くと

平署武德殿
愈々建設決定

平署では既報の如く武德殿建設を計劃し着々準備中であつたが愈々武德會平支部が中心となり署臨廣場に工費約一萬二千圓を投じて建設する事に決定、これがため横山署長は近く先進福島郡山兩市を視察する事になつたと

磐女の相手決る
會津、相馬に開催の中等校体育大會

縣下女子中等校体育大會は既報の如く競技、庭球は二十五日會津高女で、籠球は二十八日女子師範で、排球は三十一日相馬高女で夫々開催されるが昨九日福島市に於ける委員會で出場九校の組合せ抽籤を行つた結果磐女校の相手校左の如く決定した

(排球)安積、相馬、福島女師、須賀川 (籠球)女師、喜多方、會津、安積、白河 (庭球)A組—相馬、淑德女師、喜多方、安積、福島、會津 B組—會津、福島、安積、喜多方、女師、淑德、相馬 (競技)百米B組(福島、會津、女師)二百米B組(女師、安積、相馬)二百米繼走A組(相馬、喜多方、白河、會津)四百米繼走(會津、白河、福島女師)

平署合宿所
獨身者の爲に計劃中

平署長は來任以來署內外の改善刷新に努めて居る横山平署長は現在七名ある獨身署員のため非常出勤其他の便益を考慮して合宿を設くべく目下考案中であると

投槍
投書歡迎

◦◦郵便事務の改善◦◦

◇民衆との接觸を圓滑ならしめ、內外事務の刷新改善に資すべく、平局長が折々照會用紙を配り、民衆の聲を聽かんとしつゝあるは往々繁文辱禮を以て能事畢れりと心得る向も無きに非るお役所の倦套を脫した遣り方として大にその創意に敬意を表する

◇各方面から集つた回答の中には當局としても大に背綮に當るものがあり、既に參考資料として採擇されたものもあらうが、今の處該試みの成果なるものが民間に少しも解つて居ない縱令詰らぬものにせよ正直に回答した者にとつては之れ以上張り合ひの無い事は無い

◇結局この試みは動機として眞に尊重すべきものあるが一事業としては些か粗笨の譏りを免れない、故に今後は照會に對する回答の割合而して之による改善の頂目件數其他を何かの形式を以て公表したらどうかと思ふ

◇局の事務に關係した事なので序に愚見を開陳するが、窓口の混雜を緩和する方法として、徒らに分擔に拘泥せず其の統制を紊さぬ程度に於て或る係りの仕事を其の時々の繁閑により最隣接窓口に居る係をして手傳はしめたらどうか、一方が轉手古舞ひをして居る傍で樂さうなのが居るなどは廳內の緊張と云ふ處から云つても、人物經濟から云つても感服出來ない事である

(四丁目翠雨生)

出場十七組
町民体育大會に
各分團張込む

平青年團主催第六回町民体育大會は既報の如く來る十五日午前九時から開催さるるが豫定會場たる磐中校庭の使用に支障を生じたため昨九日夜マルトモホールの幹事會で第三校庭に變更決定した、尚昨九日大体申込みを締切つたが出場分團は十七組その延人員五百名と上り盛會を豫想され中に呼び物の八百繼走は各分團何れも張込みが強く大接戰を刮目されてゐる

◦◦◦平署土用稽古◦ 平署の土用稽古は既報の如く來る二十日から月末まで行ふが時間は午後一時から同二時迄で一般の參加を歡迎すると

平署警官異動

平署では新任遠藤正彌(安中出身劍道三段)庄司富太郎(同校出身柔道初段)吉田庄市(山形中出身同上)の三巡査を迎へて外勤に配置し從來の左記外勤を昨九日付欠員中の平窪、澤渡、鹿島の三駐在所に配置した

新	舊	
平窪	外勤	長谷川定男
飯野	同	佐々木太藏
鹿島	同	村上潔
澤渡	飯野	絲川利雄

郡下駒市好成績
價格は昨年より二割高

郡下最終の川前村駒糶は去る四日より三日間行つたが出場百十五頭、最高二百三十圓、最低十五圓、平均七十二圓三十四錢で此の賣上額八千三百十九圓、同じく上小川は昨九日執行出場二十六頭、最高百十圓、最低三十五圓、平均六十四圓三十錢、賣上千六百六十五圓で昨年に比し何れも約二割高であつたと、優良受賞馬所有者左の如し

(川前)牝—赤塚トヨ、大越元治、宇佐美政義、宮本富輝、根本勝弘、根本作右エ門、宇佐美吉光、矢內義美 牡—吉田米吉、宇佐美スミ、大平吉五郎、新妻長太、永山虎次郎 (上小川)牝—田久政久、草野秀義、草野寅伊 牡—草野金吾、草野勇、國井勝丸

眞性傳貧馬二頭發見
直に撲殺他方面を警戒

石城産馬畜産組合では此程今井技手により臨時傳貧檢診を執行した結果左記の如く眞症一頭の外疑似二頭が眞症と判明何れも撲殺した

石住村字石住小澤松太郎(六才)永戸村大字合戶松崎末造(十才)澤渡村大字上市萱若松光雄(八才)

科料十五圓
無屆の煙突に
けふ平區で言渡し

不始末から火を失し無屆煙突使用の廉で拘留二十日を言渡され不服で正式裁判を仰いだ平町南町飲食店入船事服部セツ(四五)に係る縣令煙筒取締規則違反事件の公判は今十日午前九時から平區で中島判事、清田檢事係り、山野邊、門傳兩辯護士立會開廷、科料十五圓を言渡された

電話買ひ度し　姓名在社

廣告を强要
拘留十五日の處罰

平町南町日雇業磐城小學生新聞社員木村安治(三九)外一名は去る七日午後一時頃同町田町清宮運送店で新聞廣告掲載方を強要中平署員に馳せつけられ昨九日拘留十五日に處せられた

巔える新田町に
官能は簡單服の行列
今年も既に七月の十日　暑つ苦しい季節は來た

岡田新內閣の出現！それが憲政の常道と云ふものであらうがあるまいが、蓋し平町の民衆にとつては表を牛乳屋さんの箱車が通つた程の係りも無さそうである、それよりも吾々には四時の運行違ひ無く所謂定石通り遣つて來たこの暑さこそ閉口だ

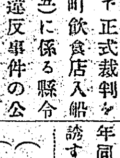
新田町の官能は、そこの格子先から蚊遣りの煙緩く流るる夏の宵に於て最も快き戰慄を見せる、試みに窃と損をした目つきで覗き込むこと。十の內八九迄エロ百%の光景が展開されて卷き線香の香りと共にトマトの爛熟した樣な甘ま酢つかいイツトが不用意な吾人の嗅覺を脅かすべく妖氣の樣に盛に發散してるではないか！。所謂アッパッパ(簡單服)の立膝がそれ！、34年型の久米仙以て如何となすだ

良くぞ男に生れける。それは暑つがりな女性の夏の裝ひとして斷然プラチカルなアッパッパの出來ぬ時代の裸か男のみの有した輕い衿持の世界であつたが當世の彼女らは——良くぞ女に生れける、ブーと戀の煙を輪に吹くと云つた寸法、まこと紗の樣な夏向きの腰卷一枚に豐滿な曲線を裹んで膝を立て、下の方から吹き込む、或は團扇で吹き込ませる萬斛の凉快を滿喫してるポーヅは、世にも涼しいものの一つである

ふくよかな曲線が伸び〳〵と快い蠕動を續けてゐる——、それを隱すアッパッパ、少くとも魔術師が金魚をかくす手巾の樣に男を蕩らす戀の妖術を秘めたヴエールを被つてる形と云はうか、變態性と嗤はゞ笑へ！、之を垣間見て些か心のネヂに弛みが來る事が何で公安とやらを害する事になるであらうか

夕闇迫る新田町に立て膝をする簡單服の藝者、何んと微妙な明暗に富み纖細な感情ひ火華を目まぐるしく放射する事よ『世界女性美藝術の一大金子塔』別に科料を取られまいから敢てこの位の讚辭を呈して置かうではないか

艶界黑白



◇植田の乙丸、小名濱のなる子、平で花榮あたりと來ては初めて出た頃生れた世間の子供達が今では中學校や女學校へ通つてる始末なんだから長いと云へば長いもんだ◇共れが單に勤續年數の上からばかりで無く何も彼も長いんだから恐れ入る、先づ第一に乙丸だが彼れ一度小一升をペロリと平げてさてびんのほつれを搔き上げ乍ら管をまき始めるとどうしても二三時間、大ていの相手の方で手を上げて了ふそうだ◇次になる子となると身長まさに五尺四寸六分、山砲兵などにして押しも押されもせぬ偉大な体格の所有者◇花榮に至つては取り敢えず背森から下の關位あつて飛行機すらその半分も飛ばぬうちにガソリンが無くなると云ふ次第、何處の事だかそれは賢明な殿方の御判斷に委せると御云ふ

學校彙報

平校同窓會
總理以下役員改選　九月中開會に決定

平小學校同窓會役員會は昨九日開催協議の結果本月下旬開會の豫定だつた第三十八回總集會は都合の爲九月二十二日に延期しその間成年同窓生の出席を大いに勸誘する事になり役員は左の如く決定した

總理—篠山廉、會長—廣田德行、副同—鈴木寶雄、幹事—大內秀次郎、武川信夫、瓜田壽、水竹仁、鈴木光四郎、橋本武夫

小學校半休
十二日から實行

平三小學校では過般來兒童の酷暑對策を講じつゝあつたが明後十二日より三十分繰上午前七時半始業、授業時間十分短縮、休憩時間十五分で午前中終業を實行すると

◦◦◦◦平商武道選手◦◦ 縣下中等校体育大會(武道)は既報の如く來月一日福島市に於て開催さるるが平商の出場選手左の如く前日三十一日午前九時で武川、麻原兩部長引率の下に出發すると

(柔道)志賀淸視、會川淸美、西川貞夫、千葉忠雄、岡野忠、千葉正雄、白井敏(劍道)草野忠悟、郡司重男、齋藤一夫、渡邊新兵衛、若松一郎、久田定男、牛久隆夫

◦◦◦第三校諸行事◦◦◦ 平第三小學校では昨九日尋一根本訓導の讀方指導敎授を行ひ放課後午後三時より低學年に於ける讀方指導に關し研究發表を行ひ後新家訓導より茨城縣敎育視察の報告があつた

◦◦駒場大尉出張◦◦ 新潟市を中心として來る十五、六の兩日行はれる新潟縣主催の防空演習に出席同十七日は若松聯隊新武德殿に開かれる第二師團劍道競技會に選手として出席すると

◦◦石田訓導出席◦◦ 今年度の縣敎育課衛生研究會當番校たる第三小學校石田訓導は昨九日より五日間文部省會議室に開催さるゝ文部省主催虛弱兒童養護施設講習會に出席中である

◦◦◦平商射擊演習◦ 平商校五年生五十五名一同は來る十四日神谷村在軍東部射擊場に於て駒場敎官引率の下に實彈射擊演習を行ふと

◦◦◦眞根井氏寄附◦◦◦ 新川町橋本葬儀店主眞根井氏は此程第三校庭藤棚の日覆(長さ七間巾三間)を寄贈した

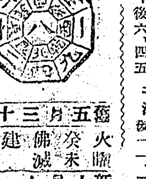
◦◦◦◦預り品を賣る 平窪村大字中平窪字辰之口桶職杉山長作(四二)は昨年十一月中旬同村內ＥＥ工事中の電工より銅線約八貫目(價格十五圓)の保管を依賴されこれを去る五月下旬平町の古物商に賣却した事發覺此の程平署に檢擧さる

◦◦傷害 双葉郡幾世橋村大字棚鹽字北澤二三農佐藤倉治郎(五二)は去月五日朝飲酒の密造に自分の內妻を誘つた隣家の北原フヂ(六四)に詫狀を迫り同人を毆打一週間を要する傷を與へ此程平區より略式で科料十五圓に處された

十一日

日出 四、三三　月出前 三、四三
日沒 六、五九　月沒後 六、四九
滿潮 前三、五〇 後六、四五
干潮 前一一、一五 後一一、三五

舊五月三十日 火曜 佛滅 癸未 建 壁宿 新七月十一日



諸判定鑑 東京市本郷區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神宮

▲一白の人 相當に進んだ話しも急轉して調ひかぬる日▲二黑の人 目立ちたる福德は無くとも相當の利益あり▲三碧の人 怠慢の報ひは衰微するのみ奮起して伸びよ▲四綠の人 靜やかなれば外部より吉慶を持込まるゝ日▲五黃の人 束ねし矢は折るに難し協力一致が至極大切▲六白の人 次第に向上する日支障ありとも屈せず進め▲七赤の人 がん前の利慾に馳せず遠大の計を立つるが吉▲八白の人 身を立つるに德を以てすべし邪氣一掃さる▲九紫の人 樂閤にはうくわうするが如き日名利共に揚るべし

難波醫院
內科　小兒科
入院應需　自炊の便あり
平町大町　電話五〇二番
醫學博士　難波睦

安齊外科醫院
內臟外科　外科一般　花柳病科
入院隨意　自炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡(電話四七五番)